

- ▶ 企業景況感は、大企業・製造業が2四半期連続で改善。先行きも改善が見込まれる
- ▶ 2023年度の設備投資計画は上方修正され、企業の強い投資意欲が確認された
- ▶ 企業の中期インフレ期待が2%超を維持。人手不足感も強く、日銀の政策正常化を後押ししか

製造業・非製造業ともに業況判断DIが改善

日銀短観9月調査では、企業の景況感を問う業況判断DIは足元を示す「最近」で、大企業・製造業が9と、6月調査から4ポイント上昇し、2四半期連続で改善しました。大企業・非製造業は、27と4ポイント上昇しました（図表1）。

業種別に大企業の業況判断DIをみると、製造業では、素材業種、加工業種いずれも改善しました。半導体供給の正常化を受けて「自動車」が大きく改善したことが全体を押し上げたとみられます。非製造業では、観光の回復を受けた「宿泊・飲食サービス」の上昇が目立ちました。

「先行き」をみると、大企業・製造業は10と、企業が業況回復を見込んでいることが示されました。大企業・製造業の先行きは、「はん用機械」と「生産用機械」、「電気機械」で改善がみられました。製造業のうち素材業種の需給判断DIの先行きは、依然として供給超過の回答が多いものの、国内外いずれも改善しました。在庫調整の進展もあり、生産・出荷等の企業活動の回復期待につながったとみられます。

大企業・非製造業の先行きは6ポイント低下しました。「不動産」、「物品賃貸」、「卸売」が比較的大きく低下しました。なお、「対個人サービス」の先行きは改善したものの、「宿泊・飲食サービス」については低下しました。人手不足が続いていることや、中国人観光客の戻りに対する不透明感などが影響している可能性があります。

企業は引き続き強気の設備投資計画を想定

2023年度のソフトウェア・研究開発を含む設備投資額（除く土地投資額）計画は、前年度比+13.3%（全規模・全産業ベース）となりました（図表2）。6月調査から上方修正され、9月調査時点の計画としては例年よりも高い伸びが示されました。

人手不足感が相対的に強いとみられる中堅・中小企業におけるソフトウェア・研究開発を含む設備投資額の伸び率が高く、省力化に向けた投資需要の強さがうかがえました。

企業の中期インフレ見通しは2%超を維持

全規模・全産業の物価全般の見通しでは、1年後、3年後、5年後の全期間で2%超のインフレが続くとの見通しが維持されました。

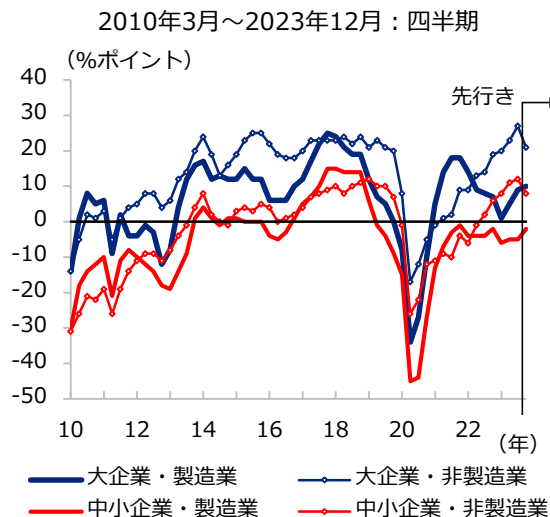
また、企業の雇用人員判断DI（全規模・全産業）によれば、先行きは人手不足感が一段と強まり、DIは1991年以来の水準になると見込まれ、賃金上昇圧力が意識されます。

企業の2%超のインフレ見通しと労働市場のひっ迫継続から、インフレと賃上げの好循環に期待が集まります。日銀は、企業の賃上げ姿勢とインフレの持続性を慎重に見極めておりとみられますが、日銀短観9月調査は金融政策の正常化を後押しする内容であったと考えます。今後、物価の高止まりと持続的な企業の賃上げ姿勢がより明らかになるにつれて、日銀の金融政策正常化を巡る思惑が強まると考えられます。

（調査グループ 須賀田進成 11時執筆）

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

図表1 日銀短観 業況判断DI



（注）業況判断DIは「良い」と回答した企業の割合から、「悪い」と回答した企業の割合を引いたもの
出所：NEEDS-FinancialQUEST、日銀のデータを基にアセットマネジメントOneが作成

図表2 日銀短観 設備投資額（全規模・全産業）

	22年度 計画・実績		23年度 計画		
	3月 調査	実績	3月 調査	6月 調査	9月 調査
ソフトウェア・研究開発を含む設備投資額 【前年度比、%】	3.2	7.4	4.4	12.4	13.3
ソフトウェア投資額	7.4	11.5	6.9	14.6	15.3
研究開発投資額	2.6	8.5	1.1	4.1	5.7

（注）除く土地投資額
出所：日銀のデータを基にアセットマネジメントOneが作成

※上記図表などは、将来の経済、市況、その他の投資環境にかかる動向などを示唆、保証するものではありません。



アセットマネジメントOne

商号等 / アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号
加入協会 / 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（REIT）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合があるため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。
 2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。